

【憲法】

問題 以下を読み、設問に答えなさい。

Xは、洗礼を受け、キリスト教を信仰する者である。Xは、自衛隊員であり、信仰を持たない男性と結婚した。夫は、Xがキリスト教を信じ、宗教的行為を行うことを認めていた。夫は、公務中に交通事故で死亡したため殉職者とされた。Xは、亡夫の仏式の葬儀の喪主を勤め、遺骨を仏壇に安置したが、二、三か月後に遺骨を自己の所属する教会の納骨堂に納め、同教会の行う永眠者記念礼拝に子とともに毎回出席した。以来、Xは、キリスト教の信仰の下に亡夫の死の意味を求め、追悼し、キリスト教の信仰を心のよりどころとして生活していた。

Yは、退職した自衛隊員らの顕彰、福祉を行っている隊友会（社団法人）であり、Zは、自衛隊A地方協力本部（自衛隊の一部局）である。Yは、Zの建物内に事務所をおくことを許され、机や電話をおいて事務を行っていた。Yに対しては、自衛隊の殉職者の遺族から、殉職者を宗教法人A県護国神社（以下、「A神社」という）に祭神として祀ること（以下、「合祀」という）への強い希望が出されていたので、YはこれをZに伝えた。

Zは、合祀は現職自衛隊員の士気を向上させることになると考え、殉職者遺族への援護業務の一環として、Yの合祀申請について積極的に協力することを決定し、Yの合祀申請に必要な書類である殉職証明書を集めて取り揃え、また、合祀申請に必要な費用調達に協力するなどをした。

このようなZの協力を得て、Yは、Y名義で、A神社に対し合祀申請を行った。A神社は、Xの亡夫を含む殉職自衛隊員27名を新たに祭神として合祀した。

Xは、合祀に先立ち、ZやYに対し、自己の信仰を明らかにし、信仰上の理由から亡夫の合祀を断る旨を告げていたが、Xの意思は無視された。後にこのことを知ったXは、亡夫が己の信ずる宗教の神と異なる神とされてA神社に祭られていることにつき、信仰上大変傷つき、日々心が乱れ、苦しんでいる。

設問1 あなたがXの訴訟代理人であったとしたら、Zに対し、どのような訴訟を提起しますか。そしてその中で、どのような憲法上の主張を行うか述べなさい。

設問 2 原告の主張と被告の主張の対立点を書き出し、この問題に関するあなたの憲法上の見解を述べなさい。

※ なお、解答用紙の記入に際しては、設問 1、設問 2 の順番で、かつ、〔設問 1〕、〔設問 2〕と見出しをつけて記入しなさい。